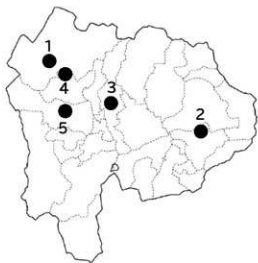


山梨考古

第175号

2025.3.15
山梨県考古学協会

題字は荒井碧堂先生



発表遺跡 Line up

- 発表1 袋場遺跡 (北中市)
北中市教育委員会 生山 優実
- 発表2 中谷遺跡 (都留市)
山梨県埋蔵文化財センター 鷹野 あきこ
- 発表3 史跡甲府城跡 (甲府市)
山梨県埋蔵文化財センター 佐賀 桃子
- 発表4 柳原神社境内遺跡 (韮崎市)
韮崎市教育委員会 関間 俊明
- 発表5 史跡御勅使川日堤防 (将棋頭・石積出)
南アルプス市教育委員会 斎藤 秀樹

1 袋場遺跡

縄文時代中期の顔面把手付土器など数多くの注目遺物が出土



4 柳原神社境内遺跡

水害から復興した神社



3 史跡甲府城跡

茅屋曲輪東面石垣の下部構造とハバキ石垣の内部を確認



5 御勅使川日堤防 (将棋頭・石積出)

桁形堤防の史跡整備と石積出三番堤の調査



2 中谷遺跡

二重の袖石を持つ奈良～平安時代のカマド



日時 2025(令和7)年3月15日(土)
会場 風土記の丘研修センター 講堂

主催 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県考古学協会

めたばいせき 埜場遺跡

北杜市教育委員会 生山 優実

- 1 所在地 北杜市武川町柳澤地内
- 2 調査主体 北杜市教育委員会
- 3 調査期間 令和5年2月27日～3月17日、令和5年4月27日～令和6年3月28日、令和6年5月15日～8月30日
- 4 調査面積 約7,800㎡
- 5 調査原因 県営圃場整備
- 6 調査担当者 生山優実・佐野 隆・廣瀬公明
- 7 調査概要

(1) 遺跡立地と調査経緯

埜場遺跡は石空川右岸の扇状地端、標高約650mに立地する縄文時代（中期中葉、中期末～後期初頭、晩期）、平安時代の集落跡です（写真1）。従来、この場所は埋蔵文化財包蔵地ではありませんでしたが、今回の圃場整備に先立つ試掘調査の結果、東西約80m、南北約220mの範囲に遺跡の広がりを確認したため「埜場遺跡」として新たに登録しました。

試掘調査では、圃場整備範囲（約57,000㎡）のうち、約13,000㎡において遺構を確認しました。しかし、数多くの遺構が発見されたことから、切土造成等により工事の影響を受ける約7,800㎡を対象に本調査し、残りは盛土造成で保存することとしました。

調査の結果、当該期の竪穴建物跡が90軒以上、堀立柱建物跡、配石遺構等が発見されました。

(2) 顔面把手付土器と顔面裝飾

49号竪穴住居跡（中期中葉）内の土坑から、ほぼ完形の状態で顔面把手付土器が出土しました（写真2）。土坑内部には直径約20～50cmの礫が底部から土坑上部まで、隙間なく充填されていました。口のすばまったフラスコ状土坑の底にも同様に詰められたことから、意図的に礫を入れている可能性が高いと考えられます。顔面把手付土器は礫を充填した後、最後に土坑壁に沿わせて「しまった」という印象を受ける状態でした。出土例の多くが意図的に壊されたような状態で出土しますが、本遺跡では完形で出土しました。この出土例は県内外から注目を集めています。

本遺跡からは顔面裝飾も多く出土しています（写真

3）。しっかりと焼き上げられ、細部にいたるまで丁寧な文様を施す精巧なつくりは、周辺地域の出土例と比較しても群を抜いています。こうした顔面裝飾が複数個出土することは珍しく、本遺跡を特徴づける遺物のひとつです。これらのほとんどが単独で出土しており、首から下がどのようなつくりなのか分かっていません。

(3) 土偶

15号住居跡（中期中葉）から、ほぼ完形の土偶が出土しました（写真4）。お腹が大きく出っ張り、蹲踞（そんきょ）の姿勢であることから、妊婦が座って出産する様子を表現していると考えられます。

67号住居跡（中期中葉）から出土した土偶（写真5）は、全長11cm、顔と脚部が欠損しています。胸は小さくつまみ出されたようなつくりをしています。その下に続くお腹とお尻は大きく張り出しており、妊娠している女性の様子をよく表しています。肩からのびる腕は右側にしかなく、その手は子どもが宿るお腹に添えられています。

(4) 配石遺構

県内では珍しい、縄文時代中期末の配石遺構が発見されました。用いられている石は花崗岩や砂岩が多く、石空川から運び上げられたと考えられます。その量は8トン以上に及びました。9号配石遺構（写真6）は石を弧状に配置し、その下部には墓壇と想定される土坑が発見されました。土坑の底からはヒスイやコハク製の垂飾が出土しています。これらを副葬したお墓の上に石を配置したと考えられます。

(5) 縄文時代晩期の遺構と遺物

第1次調査では、縄文時代晩期の住居跡（写真7）が発見されました。壁際に礫を巡らせ、中央に炬を設けています。住居内からは、多くの耳飾りが出土しました。縄文時代晩期の集落跡は、北杜市内でも非常に珍しく、この時期の暮らしを読み解く上で重要な事例です。

注目遺構、遺物が数多く発見された埜場遺跡。今後の整理作業も大いに注目されます。



写真1 調査区遠景



写真2 顔面把手付土器出土状況



写真3 埜場遺跡出土顔面装飾



写真4 15号住居出土土偶



写真5 67号住居出土土偶



写真6 9号配石遺構

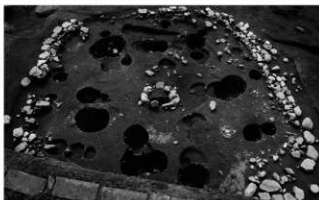


写真7 縄文時代晩期住居跡

なかや いせき 中谷遺跡

山梨県埋蔵文化財センター 鷹野 あきこ

- 1 所在地 都留市小形山 2314
- 2 調査主体 山梨県埋蔵文化財センター
- 3 調査期間 令和6年3月4日～12月12日
- 4 調査面積 約3,900㎡
- 5 調査原因 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事
- 6 調査担当者 鷹野あきこ・河西 完
- 7 調査概要

(1) 遺跡の立地・環境

遺跡が位置する小形山地区は、県東部域を流れる桂川左岸の河岸段丘上に位置しています。

これまで中谷遺跡は、中央自動車道や農業道路、山梨リニア実験線建設工事に伴って調査が行われており、今回が5回目の発掘調査となります。過去の調査では、縄文時代中期～晩期の集落跡が発見され、縄文時代の人々の活動が、桂川支流の高川が作り出した開析谷と、南東へつながる大原台地へまたがって展開していることが明らかとなっています。

今回の調査区は、縄文時代の集落が始まる開析谷の谷頭から、南東へ約200m離れた谷合の平坦地に位置します。遺跡北西には高川山が迫り、明治初年の小形山村絵図においては、高川下流の中谷集落から上流の古宿集落の中間地点に当たる集落として、“瀬木”の名前がみえます。

(2) 調査の概要

調査区は、道路を挟んで上段・下段に分かれていたため、それぞれA区・B区と呼称し調査を実施しました。A区からは奈良～平安時代の集落跡、B区からは近世以降とみられる土坑、柱穴を発見しました。

調査区は現在、近世以降の切土・盛土により平坦となっています。しかしながら、奈良～平安時代の生活面は、高川山から高川に向かって傾斜しており、当時の人々が斜面地に生活を営んでいたことが明らかとなりました。またこのような土地条件から、遺跡の埋没過程において土砂崩れの痕跡も見られました。

(3) 調査成果

A区からは、竪穴建物跡9軒の他、土坑、柱穴が見つかりました。見つかった建物のうち4軒棟については、床面近くから大量の焼土や炭がまとまって出土し、建物自体が焼失した痕跡とみられます。建物内か

ら土器等の生活道具があまり見つからなかったことから、失火や放火による火災の他、転居や建て替えのために意図的に焼き払った可能性も考えられます。また、輪の羽口や鉄斧、鉄鋸が出土した建物(SI2)もあり、集落内で小鍛冶機能を果たしていたと考えられます。

竪穴建物は、一辺が3.0～3.5mの小型の建物がほとんどでしたが、一棟のみ一辺約6.5mの大型の建物(SI4)が見つかりました。出土遺物、遺構の切りあいから大型建物が古い時代のもと考えられ、大型の建物が8世紀後半～9世紀初頭、小型の建物は9世紀～10世紀のもと考えられます。

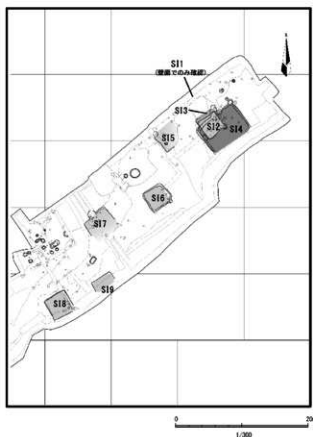
建物構造としては、小型の建物に主柱穴が確認できなかったのに対し、大型建物においては4本の主柱穴を確認しました。また、床面にも違いがあり、小型の建物には中央部にのみ薄く粘土が張られるのみでしたが、大型の建物では全面に張床が施されていました。この他、大型の建物のカマドの脇からは、深さ約15cmの土坑が見つかりました。土坑内は粘土が充填されており、カマドの補修等に使われたものと考えられます。

また、今回の調査で確認できたカマドは7基であり、うち5基は天井石を残した非常に残りの良い状態で発見されました。すべてに共通している点として、粘土と川原石を組み合わせた堅牢なつくりであること、煙道を保護するような形で川原石を配置していたことが挙げられます。これについては、建物が火山降下物を多く含む締まりのない地盤上につくられていたことから、カマドの崩落防止や煙道からの土の流入を防ぐ目的のものであったと推察しています。一方で、カマドの位置、構築方法は多様であり、集落内での統一性はあまり見られませんでした。

(4) まとめと課題

今回の調査では、奈良～平安時代の集落跡が見つかり、所謂“山間部への入り口”における人々の活動が明らかになったのが大きな成果であるといえます。

背後には高川山を背にし、目の前には高川が流れる。そんな環境に一体どのような人々が暮らしていたのか、今後の隣接地の調査と合わせ、社会的背景や自然環境、そして集落の人々の生業などに目を向けながら、検討していく必要があります。



A区北東部 遺構配置図



調査区から大原台地を望む



主柱穴を持つ大型竪穴建物 (S14)



カマドの煙道上に石を配置する様子 (S18)



焼失竪穴建物から見つかった焼土・炭化材 (S18)



二重の袖石を持つカマド (S12)



構築材に溶岩を使用するカマド (S12)

史跡甲府城跡

山梨県埋蔵文化財センター 佐賀 桃子

- 1 所在地 甲府市丸の内一丁目131番ほか
- 2 調査主体 山梨県埋蔵文化財センター
- 3 調査期間 令和6年6月25日～12月13日
- 4 調査面積 約257㎡
- 5 調査原因 史跡整備のための内容確認調査
- 6 調査担当者 佐賀桃子・渡邊みずか
- 7 調査概要

(1) 史跡甲府城跡の概要

史跡甲府城跡は、甲府盆地の北部に位置し、一条小山という独立丘陵に築かれた県内唯一の高石垣を持つ近世城郭です。文禄～慶長初期(約430年前)の野面積み石垣と、天守台を最頂部とした階層的な縄張り構造が良好に残っています。

令和3年度に策定した史跡甲府城跡整備基本計画に基づき、令和4年度から大手門に近接した内堀の復元整備に向けた調査を実施しています。

(2) 史跡の立地と旧地形

甲府城跡が立地する独立丘陵は、相川により形成された扇状地の扇端付近にあり、沖積低地との境界付近に位置しています。現在史跡指定地となっている範囲の大部分は、岩山である一条小山上に配置されており、強い地盤であると考えられます。一方、その周囲を巡る内堀は沖積地にあり、地盤が弱いと考えられます。当調査地点もここに立地しています。

(3) これまでの成果と今回の調査目的

調査対象である築屋曲輪東面石垣は内堀に面しており、シルトや砂を中心に構成された軟弱地盤上に造られています。これまでの調査により、根石より下に胴木を組んで補強した跡や石垣の変形を止めるために設置されたと考えられるハバキ石垣等、地盤環境に応じた補強や石垣の修理の痕跡が確認されました。

今年度はこれらの遺構の構造と機能を把握し、軟弱地盤に対する石垣築造技術の一端を明らかにすることを目的として調査を行いました。

(4) 調査の成果

①地盤改良や補強の痕跡 A区では、地山である砂層の上に砂礫の盛土層を確認しました。この盛土は、石垣直下の地盤改良跡である根切りによって掘り込まれているため、石垣築造段階がそれ以前には形成された

ものと考えられます。なお、B区ではこの盛土は確認できませんでした。根切りは、A区では盛土と地山を、B区では地山を0.5～1m程度掘り込み、礫を充填する構造であることを確認しました。

A区、B区いずれも根切りの上に約0.6m間隔で石垣面に対して直交する枕木が敷かれ、その上に石垣面に平行する胴木2本が設置されていました。胴木の上には根石が据えられています。枕木には、胴木との接点に杭が打たれていました。また、枕木は堀側の先端が跳ね上がっていました。この現象については石垣が経年で沈降した可能性や、当初から跳ね上がる形状を意図して設置した等、様々な解釈ができますが、これまでの発掘調査や既往の地盤調査等様々な調査で得られた情報を踏まえ、今後検討していきます。

一方、ハバキ石垣の背面の石垣では、地山を掘り込んで胴木を設置するだけのシンプルな構造であることを確認しました。

②石垣の変形とそれに対する補強 ハバキ石垣には、盛土や根切り、胴木等の地盤改良や補強の痕跡はみられず、地山に直接石垣を築造していることが分かりました。ハバキ石垣の裏栗層中では、背面石垣に近い箇所では他の礫径より著しく大きい30cm以上の大きさの礫が集中する状況を確認しました。

また、背面石垣を観察した結果、現存する石垣の約半分の高さに局所的な孕み出しがみられた他、築石や詰石の動き、築石表面の破断を確認しました。ハバキ石垣が築造された要因は、こういった石垣の変形が進行することを抑止する目的があったのではないかと考えられます。

(5) まとめと課題

今年度の調査では、築屋曲輪東面石垣の下部構造とハバキ石垣の内部を確認することができました。今後は、この石垣背面の構造を調査する必要があります。

甲府城跡の石垣は、近世城郭の石垣のなかでも初期段階に位置づけられており、当該期の地盤改良や補強の詳細が明らかとなった貴重な事例です。この貴重な事例を守り、伝えていくために今後も調査や普及活動を行いますので、引き続きご注目いただけると幸いです。

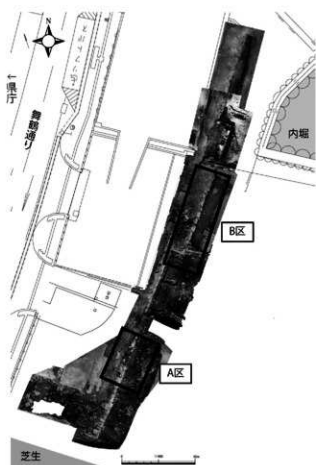


図1 調査地点



写真1 A区 盛土と根切りの切り合い関係



写真2 A区 全景



写真3 A区 枕木と根切り内部の破層

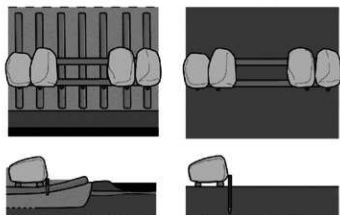


図2 胴木関連遺構模式図



写真4 B区 ハバキ石垣内部

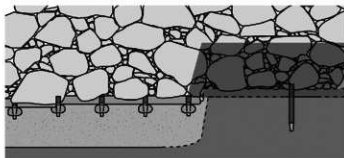


図3 楽屋曲輪東面石垣下部構造の想定図

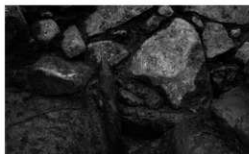


写真5 B区 ハバキ石垣背面石垣の胴木

柳原神社境内遺跡

葦崎市教育委員会 関間 俊明

- 1 所在地 葦崎市小田町小田川
- 2 調査主体 葦崎市教育委員会
- 3 調査期間 令和5年9月26日～
令和6年1月29日
- 4 調査面積 約90㎡
- 5 調査原因 国道拡幅に伴う神社諸施設移転
- 6 調査担当者 関間俊明・渋谷賢太郎・半澤直史
- 7 調査概要

(1) 地誌等から見える柳原神社

柳原神社について書かれている書籍の一つに文化年間(1804～18年)に編纂された『甲斐国志』があります。

神明宮 小田川村 此処藤井庄ノ渠口ユエ水神ヲ相殿トス近世又金毘羅神ヲ配祠シテ柳原三社ト称ス社地無税ナリ又属里馬場二稲荷祠アリ社地十五坪余地ナリ武田氏ノ臣馬場氏ノ立所ナリ此辺ハ往時神祖北条氏直ト御対陣ノ時ノ戰場ナリ穴山村稲倉神主兼帯ス

と記され、天照大神と共に、「藤井庄ノ渠」の取水口と関係して水神、そして近世に金毘羅神の2柱を合祀したこと、隣村の穴山村の稲倉徳見神社の神主が兼帯していたこと、また、武田氏滅亡後に発生した徳川氏と北条氏による天正壬午の戦い時にこの地が戰場となったとされています。これ以降、『社記』や『北巨摩郡誌』にも記録されていますが、神社そのものの歴史的なことについてはほとんど触れられていません。そのような中で昭和5(1930)年に刊行された『北巨摩郡勢一斑』では、

中田 小田川字切石 柳原神社 天照皇大神・崇徳天皇・罔象女命 勧請の年月不詳、古社地は方今の所より半町東にありしが文化年中洪水の為流亡此の地に遷座す明治十二年村社に列す、境内三百七坪、本殿拝殿あり、社堂淺川榮丸、氏子七拾六戸

とあり、具体的な勧請時期を特定できないこと、文化年中の水害以前は現在地よりも50メートルほど東にあったことが記録されています。

そして、『葦崎市誌』では、それまでの地誌を統括して、

もと村の東の方塩川の近く柳の木の下の多い場所

に神明宮が祀られて、これが柳原の神明宮といわれていたが、文化年間塩川の洪水のため現在の地に遷座され、そのとき藤井堰の安全のため堰口に祀られていた水神と、さらに併せて水の安全と産業の発展、住民の安泰とを願ってその神徳の高い金毘羅神を祀り柳原の三社と呼ばれ、のちに柳原神社といわれるようになったものと思われる。

とまとめています。

今回の調査では、このようなことを踏まえ、現状の柳原神社と文化年間時の遷座と現状の建造物及び礎石との関係性などを把握し、記録化することが地域の歴史にとり大切なことと位置付けて調査を実施しました。

(2) 発掘調査概要

①鳥居と拝殿の間について遺構等の把握を行い、参道の存在を把握することができました。また、参道設置時の整地面を確認しえたことから、その整地面のあり方を探るために、深掘りを行いました。その結果、整地面の下に砂礫層が堆積し、その下に土壌化が認められる層が堆積としては薄い層が形成されていることを確認しました。この砂礫層は水害によるものと考えることができ、前述した地誌で記録されている文化年間



の被害後に、整地を行った上で神社の遷座をしたことを示すものと考えられます。被害と先人たちがどのように向き合ってきたのかを示すものといえます。

②現状の上屋を解体後に調査することも視野に入れましたが、解体工事に伴って礎石が明らかに動くことや床下の立体的な構造物が破損することもこれまでの経験上、分かっていたことから、上屋を残した状態で、床板を外し梁などを残した状態で調査を実施しました。

それにより、礎石配置と建物内の空間利用を具体的な照合、木札の分析により改修時の礎石等の移動などの可能性などを把握することができました。

たとえば、賽銭箱の設置時に置かれた礎石と上屋構造を支える礎石は設置面が同一であることから、その時期差を認めることは考古学的調査では確認しえませんでした。梁を残した調査をしたことにより、梁が途中で切断された上で賽銭箱の設置が行われたことが

把握でき、上屋構造と地面に接した下部構造を同時に調査することで、建物の空間利用の変遷の細部にまで言及することができることを再認識しました。

③分かったこともあれば、課題も当然あり、例えば水害層の存在は把握できましたが、文化年間の水害の具体的な年代については地域に伝えられている文書などの調査が必要になってきます。

(3) 担当からひとこと

今回の調査は建物（上屋）を残した状態で調査を実施しましたが、この調査ができたのも神社をはじめ地元の方々協力があったからこそだと思います。柳原神社の所在する小田川地区では、「ほたる祭り」の開催、今回の神社移転についてクラウドファンディングへの挑戦など地域の文化を守り伝えていこうという気持ちが伝わってくる積極的な取り組みが数多く行われています。新しく神社が再建された折には、日本一ぶさいくと称される狛犬に会いに多くの方が参拝していただけたらと切に願います。



しせきみだいがわきゅうていぼう 史跡御勅使川旧堤防

しよきがし いしつみだし
(将棋頭・石積出)



樹形堤防ヴァーチャルミュージアムと史跡整備のあゆみ

南アルプス市教育委員会

齋藤 秀樹

- 1 所在地 南アルプス市有野地内
- 2 調査主体 南アルプス市教育委員会
- 3 樹形堤防整備期間 令和4～6年度
石積出調査期間 令和4～10年度予定
- 4 整備面積 4,412㎡
調査面積 約350㎡
- 5 調査原因 史跡内試掘確認調査
- 6 担当者 齋藤秀樹・小澤英幸・後藤健一郎

(1) 史跡の概要

国の史跡に指定されている御勅使川旧堤防(将棋頭・石積出)は、南アルプス市の石積出一番～三番堤と六科将棋頭、樹形堤防、葦崎市の下条南割将棋頭で構成されています。御勅使川扇状地扇頂部に築かれた石積出は、少なくとも近世では扇状地全域の22か村を守る役割があり、その村々によって幾度となく修復も行われていたことが文書から明らかになっています。石積出が守っていた御勅使川扇状地は、砂礫が主体のため水の浸透性が高く、干ばつがたびたび起こる乾燥地帯でした。その水を灌漑するため、寛文10(1670)年、葦崎市上円井の釜無川から取水し南アルプス市曲輪田まで約17km開削された用水路が徳島堰(国登録記念物)です。灌漑された村々の中で、旧六科村は御勅使川の河原の中央に水門を設け徳島堰の水を分水しなければならず、その水門を守るために樹形堤防が築かれました。この水門で分けられた徳島堰の水が六科将棋頭が守る耕地に導水され、新田が拓かれました。このように徳島堰開削以降、樹形堤防と六科将棋頭は、御勅使川の治水と徳島堰の利水を兼ね備えた一体のシステムとして機能していたことが明らかとなっています。

(2) 樹形堤防の史跡整備

太平洋戦争後、樹形堤防は雑木林に覆われその存在が忘れられていましたが、市教委が平成19年度から調査を開始し、第1・2次試掘・確認調査を実施、その結果を踏まえ、平成26年10月史跡に追加指定されました。次に史跡を保存し、一般公開するために平

成28年度史跡整備基本計画を策定しました。短期で樹形堤防、中期で石積出、長期で将棋頭を整備する工程を定め、南アルプス市の歴史そのものとも言える治水・利水の歴史や文化を伝えることに加え、現代の防災や果樹栽培の歴史を伝える場として、市民とともに守り伝える整備を目指しました。令和4年度に史跡整備に着手、欠損・崩落した石積の修復を行い、堤体の基底部を守る木工沈床と呼ばれる根固めの一部を露出展示し、堤体外側は防草シートを敷設した上に砂礫を戻して旧河原を表現しました。堤体を守る堤内は野芝を貼り、人が集える空間ともしています。その他各箇所で安全対策を行い、解説板や全体を一望できる展望台を設置、便益施設として駐車場や園路などを整備し、令和5年度末に一般公開を開始しました。また、発掘調査時の発掘体験、整備工事時の石積修復への参加、整備後の園路緑石整備体験などを各段階で実施し、さまざまな人々と「ともに守り伝える」整備を行っています。

(3) 石積出三番堤 調査の概要

整備基本計画の中期計画に位置付けられる石積出については、令和4年度から三番堤の発掘調査に着手し、令和7年1月現在も調査を行っています。

三番堤は小段を設けた石積の堤防で、基底部を守る根固めには木工沈床が敷設されています。天端から木工沈床まで高さ約7m、長さ170mある巨大な堤防です。

現在調査中のため、遺構の評価が変わるかもしれませんが、現時点で明らかとなっている主な成果を以下にまとめます。①堤体上部は石を積み上げ、ぐり石を施し石積されている。②川側の河床は低く、山側の地形は高まっているため、その地形に合わせて堤体の高さと規模が調整されている。③南側の根石には長さ1mを超える巨石が用いられ駒木の痕跡も発見された。④その川側には堤体基底部を保護するため枠と呼ばれる水制が置かれ、さらに外側には竹蛇籠が配置されていた。



スタート 史跡指定前 石積見えず



平成 21～23 年度
第 1・2 次試掘調査



平成 26 年度
樹形堤防追加指定！



令和 4 年度
史跡整備開始！



平成 30～令和 3 年度
第 3 次試掘調査 山考協と発掘体験



平成 29 年度 整備基本計画策定



令和 4 年度 史跡整備
小学生による石積み体験。罫で記名



令和 5 年度 史跡整備 縁石整備体験



令和 6 年度 史跡整備完成。一般公開！
新たなスタート

樹形堤防史跡整備までのあゆみ



石積出三番堤



枠の推定ライン



竹蛇籠

手前の石列は枠の川側に設置された竹蛇籠が



枠の外側を支える立成木



発見された枠

石積出三番堤

令和6年度の県内埋蔵文化財の調査と保護

山梨県観光文化・スポーツ部 文化振興・文化財課 埋蔵文化財担当

1 届出件数と内容（令和5年度分）

令和5年度の県への文化財保護法（以下、「法」という）に基づく届出等の件数は、以下のとおりとなっています。令和4年度と比較して、届出総数はほぼ横ばいです。

<試掘調査・発掘調査>

民間主体（法92条）：11（3）件

行政主体（法99条）：235（238）件

<遺跡内の土木工事等の届出>

個人・民間（法93条）：827（906）件

公共団体（法94条）：78（79）件

<遺跡の不時発見>

個人・民間（法96条）：0（1）件

公共団体（法97条）：0（0）件

※（ ）内は令和4年度の数字。

近年の件数の推移（次頁グラフ）を見ると、土木工事等の届出件数は景気・社会情勢など（消費税増等）を要因として、増減を繰り返しておりますが、ほぼ横ばいの数字となっています。一方、発掘調査件数は、この数年で増加傾向にありましたが令和4年度から減少し、そこからは横ばいとなっています。

2 開発に伴う発掘調査（令和7年1月1日現在）

令和6年4月～12月に実施された県内の発掘調査の状況について概観します。大小様々な開発行為に伴って試掘調査が行われ、埋設保存ができない場合に限り、記録保存のための発掘調査が実施されています。大規模な事業としては、面積が広大な農業基盤整備事業に伴う試掘調査・発掘調査が、峡北地域や峡東地域を中心に行われています。リニア中央新幹線や新山梨環状道路東部区間の建設工事に伴う発掘調査も本格化しており、数地点で調査が進められています。一方、民間開発では、個人住宅や宅地造成などの住宅関係の開発にかかる割合が依然高くなっています。

なお、周知の埋蔵文化財包蔵地外の試掘調査等により、新たに1つの遺跡が発見され、4つの遺跡の範囲が変更されました。

3 発掘調査の成果

今年度県内で行われた発掘調査では、各地で成果が

あがっています。

リニア中央新幹線保守基地建設工事に伴い、中谷遺跡（都留市）の発掘調査を実施しました。平安時代の集落跡が明らかになり、斜面部にも集落が広がっている状況が確認されました。リニア中央新幹線の本線工事では、西原遺跡（笛吹市）や毘沙門遺跡（笛吹市）、入田遺跡（甲府市）、大津天神堂遺跡（甲府市）、平田宮第2遺跡（中央市）等でも調査が進められています。中央新幹線の駅周辺の整備に係る発掘調査が昨年度から始まっています。大津横田遺跡では、南北に広がる中世の水田跡が発見されました。新山梨環状道路建設工事に伴い実施した調査では、笛吹市石和町地内において宮窪遺跡と池田神明遺跡の発掘調査が行われました。宮窪遺跡からは、新たに中世の集落跡が発見されました。道の駅富士川第2駐車場の整備に伴い、青柳町町屋口遺跡（富士川町）の発掘調査が実施され、平成22年に行った発掘調査で検出されていた道路遺構とそれに伴う水路跡が続いている様相を確認しました。

甲府市では県道の工事に伴う伊勢町遺跡で弥生時代から古墳時代前期の方形周溝墓等の墓域が形成されている様相が確認されました。韮崎市では、大規模圃場整備に伴い、青木原遺跡や御座田遺跡において発掘調査が実施されています。北杜市の埜場遺跡では、令和5年度から継続して調査が行われ、縄文時代中期の残存状態の良い顔面把手付土器等が出土し、貴重な成果が相次いでいます。

笛吹市の亀甲塚古墳では、帝京大学による調査が行われ、後方部の1辺が15m以上であることが確定し、墳丘側から3世紀末から4世紀初頭の高環が出土しています。

北杜市の諏訪原遺跡では、盛岡大学と中央大学による調査が行われました。遺跡形成過程の復元を目的に縄文時代中期の住居跡が発掘されました。

4 埋蔵文化財保護体制の整備

県内の市町村の状況として、発掘調査など埋蔵文化財保護行政を担当する専門職員は、全27市町村のうち15市町に配置されており、配置率は約56%となっています。いわゆる団塊の世代の退職等によって、職

員数は減少傾向にあります。一方で新規採用などもみられます。実務経験の少ない若手職員の育成が全国的にも課題となっています。また、昨今は専門職員の正規職を公募しても応募者がいない状況が全国的に課題になっています。育成だけでなく専門職員のなり手確保も課題になってきており、人口減少の中で専門職員の魅力発信も求められています。

文化財専門職員は、発掘調査によって埋蔵文化財の保護を図るだけでなく、これまでの調査成果などを活用し、地域アイデンティティの形成や地域活性化に貢献していくことが求められています。埋蔵文化財のみならず、文化財行政全般において保護・活用を担う重要な人材として適切な職員配置が望まれます。

5 埋蔵文化財の保存と活用

(1) 史跡の整備と発掘調査

本県には16件の国指定史跡、29件の県指定史跡があります。これらの貴重な史跡の保存と活用を図るため、指定地の公有化や計画の策定、保存を目的とした確認調査など、保存・活用に関する取り組みが行われています。令和6年3月には南アルプス市の桁形堤防の史跡整備が完了し、一般公開が始まっています。国指定史跡では、甲府城跡（山梨県）、武田氏館跡（甲府市）、梅之本遺跡（北杜市）、新府城跡（韮崎市）、御勅使川田堤防（南アルプス市）、甲斐国分寺跡（笛吹市）などで、保存・活用、整備が進められています。

(2) 展覧会・シンポジウム・研究会等

今年度の展覧会として、山梨県立考古博物館では、企画展「重要文化財指定25周年記念 一の沢遺跡出

土品展」、企画展「呪い（まじない）の世界」、特別展「縄文時代の不思議な道具」が開催されました。

北杜市考古資料館では、長野県富士見町・原村と連携して、共同企画展「縄文ど真ん中」が開催され、市制20周年記念企画展「遺跡の宝庫 北杜～20年の発掘調査成果～」が開催されました。南アルプス市ふるさと文化伝承館では、新春ミニ企画展「あれもへび！これもへび？」が、釈迦堂遺跡博物館では企画展「やまなし土偶探訪」が、ミュージアム都留では、「都留の埋蔵文化財展」などが開催されました。

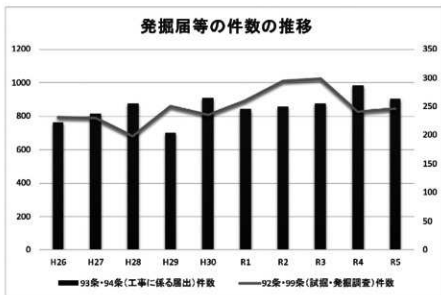
その他、山梨県考古学協会は、設立45周年記念講演会を行いました。また、地域大会「二子塚古墳のなぞをさぐる」を中央市で開催しました。

6 まとめ

令和6年度も発掘調査の生の情報を地域の方に伝える場や、博物館の展示、各研究活動等において充実していた年と思います。

一方で、文化財保護法第93条、第94条に基づく届出・通知がないままに工事が始まってしまふ事案が今年度は12月までに4件発生しています。また、10月には本来保管すべき出土品を廃棄した事案が西桂町で発覚しました。

県では10月に、出土品の保管・管理の徹底を通知しました。12月には市町村文化財関係主管課長会議で、無届開発の報告と出土品の適切な管理を改めてお願いをしたところです。埋蔵文化財の保護のため、関係各位の御協力をお願いいたします。



発掘調査最新情報

- ① 遺跡名 ② 所在地 ③ 遺跡の時代 ④ 調査期間 ⑤ 調査担当者
⑥ 調査機関 ⑦ 調査面積 ⑧ 遺跡の概要 ⑨ 問い合わせ先

甲府市

①史跡武田氏館跡（しせきたけだしやかたあと）②甲府市古府中町地内 ③戦国 ④令和7年1月22日～令和7年3月28日（予定）⑤鷹野義朗 ⑥甲府市教育委員会 ⑦約30㎡ ⑧史跡内容確認に伴う重要遺跡内容確認調査。主郭一西曲輪間土橋及び堀護岸の状況確認に着手した。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①天神西遺跡（てんじんにしいせき）②甲府市千塚4丁目地内 ③古墳・平安 ④令和6年4月26日～令和6年9月30日 ⑤平塚洋一、宮沢公雄 ⑥甲府市教育委員会、公益財団法人山梨文化財研究所 ⑦約250㎡ ⑧道路拡幅に先立つ記録保存のための調査。令和5年度に続く第2次調査で、本年度は南北約70mの細長い調査区を5工区に分けて調査を行った。明治時代に作成された和紙公図から、神社参道に当たることが想定されたが、その痕跡を確認するまでは至らなかった。調査の結果、古墳時代前期の方形周溝墓1基、平安時代と思われる溝跡3条、土坑9基、ピット46基、石列1列を検出した。方形周溝墓は、コーナーの一部が検出できただけで、高塚がややまとまって出土した。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324、公益財団法人山梨文化財研究所 055-263-6441

①大津横田遺跡（おおつよこたいせき）（第2次調査）②甲府市大津町地内 ③中世 ④令和6年5月20～令和6年7月19日 ⑤熊谷晋祐・一之瀬はる奈・原雅喜 ⑥県埋蔵文化財センター ⑦577㎡ ⑧前年度の調査区から中央自動車道を挟んで北側にあたる。現地表から30cm程度で中世の遺物包含層となり、狭小の面積ながら、300点近くの遺物位置を記録している。浅く狭い溝状遺構が10条検出されており、畑等の土地利用が示唆される。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①史跡武田氏館跡（しせきたけだしやかたあと）②甲府

市大手3丁目地内 ③戦国 ④令和6年6月1日～令和7年3月28日（予定）⑤鷹野義朗 ⑥甲府市教育委員会 ⑦約150㎡ ⑧史跡内容確認に伴う重要遺跡内容確認調査。家臣屋敷推定地の調査で、溝跡やピットを確認している。調査は、遺構確認までで止めているが、幅が5m以上に及ぶものもあり、家臣屋敷の堀跡など家臣屋敷および城下町の空間利用について検討をしている。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①大津天神堂遺跡（おおつてんじんどういせき）②甲府市大津町地内 ③中世 ④令和5年6月5日～令和6年7月5日 ⑤熊谷晋祐・一之瀬はる奈・原雅喜 ⑥県埋蔵文化財センター ⑦4,410㎡ ⑧令和5年度から年度を繰り越して調査を実施したが、ここでは令和6年3月以降の成果のみ記す。第1面では、中世末の水田跡と、鳥居状の盛土遺構が確認された。また、幅3mほどの道状の遺構もある。鳥居であれば県内の発掘調査で確認した事例として初めてのものとなる。第2面は柱穴及び溝等で構成される集落跡が確認された。概ね15世紀段階と推定される。幅3m程度の溝からは、漆椀や木製の杓、完形のかわけなどが出土している。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①史跡甲府城跡（しせきこうふじょうあと）②甲府市丸の内一丁目131番ほか ③近世 ④令和6年6月25日～令和6年12月13日 ⑤佐賀桃子・渡邊みずか ⑥県埋蔵文化財センター ⑦約257㎡ ⑧大手門に近接した内堀の復元整備のため、令和4年度から菜屋曲輪東面石垣の調査を実施している。今年度は石垣の下部構造を主目的に調査し、調査区南側で礫を充填する根切りとその上に密に組まれた胴木等の地盤改良や補強の痕跡を確認した。また、変形が生じた石垣の補強技術と考えられるハバキ石垣の背面には礫を充填した根切りは発見されず、胴木の敷設はみられたものの枕木は確認されなかった。近接した地点間における地盤改良・補強の違いについては、今後の課題である。⑨県埋蔵文化財センター

①大津横田遺跡(おつよこたいせき)(第3次調査)
 ②甲府市大津町地内 ③中世 ④令和6年7月16日～令和7年2月28日 ⑤熊谷晋祐・一之瀬はる奈・原雅喜
 ⑥県埋蔵文化財センター ⑦約8,500㎡ ⑧前年度の調査区の西側にあたる。現地表から70cm程度で中世の遺物包含層となり、約3,000点の遺物位置を記録している。

出土遺物の年代は13世紀～16世紀頃まで幅があると思われる。調査区の大半は畦畔を伴う水田跡であるが、北東側ではピットや土坑、小屋状の掘立柱建物跡も確認された。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①勝山城跡(かつやまじょうあと) ②甲府市上曾根町地内 ③弥生・古墳・中世 ④令和6年7月22日～令和6年12月20日 ⑤高左裕祐・高野玄明 ⑥県埋蔵文化財センター ⑦約1,800㎡ ⑧甲府市上曾根町の独立丘陵に造られた城跡で、中央新幹線の建設工事に伴い城跡北端とその下の裾部で調査を行った。北端では築城時に盛った可能性のある盛土が検出され、堅堀の可能性ある落ち込みも確認した。裾部では、溝状遺構や古墳時代の土器片が出土し、さらに下層では弥生時代後半の土器片も出土した。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①史跡武田氏館跡(しせきたけだしやかたあと) ②甲府市屋形3丁目地内 ③戦国 ④令和6年7月29日～継続中 ⑤鷹野義朗 ⑥甲府市教育委員会 ⑦約70㎡ ⑧史跡内容確認に伴う重要遺跡内容確認調査。梅筋曲輪北西虎口推定地の調査で、盛土造成を確認している。造成が虎口に伴う土塁の一部が検討しており、今後、梅筋曲輪と西曲輪の空間利用について検討していく。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①伊勢町遺跡(いせちょういせき) ②甲府市太田町277-2ほか ③弥生・古墳 ④令和6年8月1日～令和6年12月20日 ⑤平塚洋一・望月健太 ⑥甲府市教育委員会、昭和測量株式会社 ⑦約250㎡ ⑧道路拡幅に先立つ記録保存のための調査。令和4・5年度に続く第3次調査で、本年度の調査は東西約56mの細長い調査区を3工区に分けて行った。調査では堅穴建物1基、方形周溝墓6基、礎床木棺墓の可能性をもつ小群葬2基のほか、溝跡・土坑・ピット等の弥生時代中期から古墳時代前期

の遺構・遺物を確認した。弥生時代中期の溝跡では現地表下2.3m付近から栗林式土器がまとまって出土した。また、調査区西端から20m付近より東側に方形周溝墓が集中する傾向があり、古墳時代前期に居住域と墓域の住み分けがあったことが想定できる。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324、昭和測量株式会社 055-262-7266

①甲府城下町遺跡(こうふじょうかまちいせき)(中央4丁目4区) ②甲府市中央4丁目361ほか ③近世・近代 ④令和6年8月1日～令和6年10月28日 ⑤志村憲一・藤巻浩太郎 ⑥甲府市教育委員会、昭和測量株式会社 ⑦115.45㎡ ⑧県道拡幅工事に伴う発掘調査。調査地点は甲府城下町三の堀内の甲州道中柳町宿である。調査では近世から近代にかけての数時期の火災層と礎石・上水道遺構を検出した。また、『甲府市街全図(大正9年)』に記載された水晶清玉堂の跡地から約630点の水晶原石と共に作成途中の眼鏡レンズ等が確認された。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324、昭和測量株式会社 055-262-7266

①史跡武田氏館跡(しせきたけだしやかたあと) ②甲府市古府中町地内 ③戦国 ④令和6年8月6日～令和6年11月18日 ⑤鷹野義朗 ⑥甲府市教育委員会 ⑦約2㎡ ⑧史跡内容確認に伴う重要遺跡内容確認調査。西曲輪土塁の堆積状況を確認した。土塁は突き固めによる互層によって構築されており、調査区内では石列を確認した。類例として、主郭南土塁の断面調査時の石列があり、土塁の土留めの役割、土塁普請にあたった人々の工区と接合面の強化の役割などが想定される。本調査は部分的なものであるが、土塁内石列を確認したことから、主郭南土塁で確認しているⅣ期が西曲輪造営時期以降である証明を補強する1つの成果となった。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①本郷遺跡(ほんごういせき)(2328-2地点) ②甲府市善光寺3丁目2328-2ほか ③古墳・中世 ④令和6年10月3日～令和6年11月6日 ⑤藤巻浩太郎 ⑥昭和測量株式会社 ⑦87㎡ ⑧集合住宅建設のため令和5年度に行った調査の追加調査。遺跡は甲府盆地北縁を南流する大円川と高倉川にはさまれた小扇状地上に立地する。本年度の調査は前年度調査の南側約87㎡を対象としてい

る。調査では前回検出された弥生時代の溝の延長部分、中世の溝2条・土坑1基・井戸1基、近代とみられる溝2条が検出された。中世の土坑からは仏具とみられる銅鏡1点が出土した。また、もう一つの土坑は井戸とみられかわらの欠片が出土した。⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①入田遺跡(いりたせき)②甲府市大津町地内③中世～近世④令和6年10月28日～令和7年1月24日⑤熊谷晋祐・桐原夏帆・一之瀬はる奈⑥県埋蔵文化財センター⑦約920㎡⑧本遺跡では中世～近世の水田畦畔を発見した。1面目は畦畔を伴う近世の水田跡、2面目も畦畔を伴う中世の水田跡である。2面目は近隣の大津横田遺跡と同時期の所産であると考えられる。畦畔以外の遺構は畦畔に伴うと考えられる溝を1条検出している。遺物は300点以上の出土位置記録を行っているが、その中でも渡来銭が比較的多く30点近く出土している。中世の畦畔と近世の畦畔はほぼ同位置で検出しており、畦畔と同位置に現代の区画も一部確認することができることから、昔の区画が現在まで踏襲されている部分があることが想定される。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①史跡武田氏館跡(しせきたけだしやかたあと)②甲府市大手3丁目地内③戦国④令和6年11月25日～令和7年3月28日(予定)⑤鷹野義朗⑥甲府市教育委員会⑦約24㎡⑧史跡内容確認に伴う重要遺跡内容確認調査。家臣屋敷推定地の調査で、落込みを確認している。狭小な範囲での調査であるため、落ち込みが家臣屋敷に伴う堀跡かは不明確であるが、戦国期のかわらけが出土しており、家臣屋敷の空間利用について検討できる資料を得ている。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

都留市

①中谷遺跡(なかやいせき)②都留市小形山2314③奈良・平安④令和6年3月4日～令和6年12月18日⑤鷹野あきこ・河西完⑥県埋蔵文化財センター⑦約3,900㎡⑧中央新幹線(品川・名古屋間)建設に伴う発掘調査。奈良時代～平安時代とされる石組カマド付竪穴建物9軒を検出した。うち4軒については、床面付近から大量の焼土・炭化物が出土し、焼失したものとみられ

る。本遺跡は山間部の段丘上に位置しており、調査によって造成以前の傾斜地に集落が形成していることが明らかとなった。検出したカマドはいずれも川原石を堅牢に組んで作られたものであり、火山灰質の軟弱地盤に対応してつくられたものと推定される。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①中央三丁目遺跡(ちゅうおうさんちようめいせき)②都留市中央三丁目223③中世・近世・近現代④令和6年8月19日～令和6年9月5日⑤奈良泰史(日本考古学会協会員):小島花瑠・三浦春(都留市教育委員会)⑥都留市教育委員会⑦500.55㎡⑧事務所の新築工事に伴う発掘調査。当該地は「谷村城」の埋蔵文化財包蔵地内であるため、今回調査が実施された。主な遺構として、平安時代の竪穴住居跡2軒および掘立柱建物跡の柱穴の一部と考えられる土坑等が挙げられる。調査の結果、谷村地区では初となる平安時代の竪穴住居跡が検出された。これにより、当該地において、以前までの調査結果から想定されていたよりも長期間にわたる人々の営みがあったことが想定される。今回の調査は範囲が限定的なものであったため、今後周辺の調査をもって集落の広がりを確認していきたい。⑨都留市教育委員会 0554-45-8008

山梨市

①屋敷平遺跡(やしきだいらいせき)②山梨市下神内川地内③古墳～近世④令和6年7月4日～令和6年10月3日⑤泉英樹・浅川晃一⑥昭和測量株式会社⑦655㎡⑧道路建設に伴う調査。遺跡は甲府盆地東部を流れる笛吹川と重川にはさまれた扇状地に立地する。令和5年度に2,466㎡の調査を行い、古墳時代と奈良・平安時代の竪穴建物を検出し、墨書土器なども出土している。今年度の調査では流路跡8条などを検出した。竪穴建物は検出されなかったが、流路跡からは主に奈良・平安時代の遺物が出土し、今年度の調査区より北側にも集落が存在していた可能性がある。⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①阿弥陀堂遺跡(あみだどういせき)②山梨市下井尻地内③縄文・古代・中世・近世④令和6年8月8日～令和6年11月8日⑤望月秀和⑥公益財団法人山梨文化

財研究所 ⑦ 524㎡ ⑧ 畑地帯総合整備事業（農道新設工事）に伴う発掘調査。調査対象地に近接する神竜山雲光寺は寺伝に安田義定の開基とあり、寺域には安田家五輪塔が鎮座している。周辺には古くから石組みの水路が構築されており、本調査においても中世段階の遺構の検出が期待されていた。調査の結果、畑地の地境溝に中～近世の遺物が混在した他、耕作痕以外の遺構では時期不明のフラスコ状土坑1基と、縄文土器が混在する旧流路跡を検出した。⑨公益財団法人山梨文化財研究所 055-263-6441

①青木原遺跡（おおきはらいせき）②葦崎市清哲町地内 ③縄文・平安・近代 ④令和6年10月16日～令和7年3月28日（予定）⑤半澤直史 ⑥葦崎市教育委員会 ⑦約4,500㎡ ⑧ 圃場整備事業に伴う発掘調査。造成において切土される部分について本調査を実施。調査では住居跡・土坑・ピット等を検出。遺構及び遺物包含層からは、土器及び石器等を検出。工区の一部は以前の水田而造成等により大きく削平を受けており、現在各遺構の時期等の検討を進めながら、調査を実施している。⑨葦崎市教育委員会 0551-45-7256

葦崎市

①羽根前遺跡（はねまえいせき）②葦崎市大草町地内 ③縄文・弥生・古墳・中世 ④令和6年6月11日～令和6年11月15日 ⑤半澤直史・関間俊明 ⑥葦崎市教育委員会 ⑦約330㎡ ⑧ 県道拡幅に伴う発掘調査。縄文、弥生、近・現代の遺構及び遺物を検出した。主な縄文時代の遺構は、前期（神ノ木式期）の竪穴建物跡であり縄文土器とともに石器等を検出。弥生～古墳時代の遺構としては、方形周溝墓を検出。近・現代の遺構としては陶器甕を埋設した遺構や樽と想定される物を埋設した痕跡の遺構などを複数検出した。⑨葦崎市教育委員会 0551-45-7256

①御座田遺跡 出水一番堤地点（みさだいせき）でみずいちばんつつみちてん ②葦崎市龍岡町地内 ③近世・近代 ④令和6年10月1日～令和7年3月31日（予定）⑤渋谷賢太郎・関間俊明・半澤直史 ⑥葦崎市教育委員会 ⑦約1,500㎡ ⑧ 圃場整備に伴う発掘調査。出水一番堤は釜無川の堤防遺跡であり、明治時代には存在していたものと考えられる。圃場整備の工区においては、5工区と6工区に跨って所在する。昨年度堤防の南側にあたる5工区部分を調査支援業務にて実施した経過があり、今年度は堤防の北側にあたる6工区部分の調査を市教委単独で実施。調査では、川表側の石積が部分的に崩れた状態を確認しており、いくつかの段階で川表側の石積が修築されていることを確認。水害等による石積の崩壊状況と埋没過程、各段階の土地利用及びその変遷の検討を行いながら調査を実施している。⑨葦崎市教育委員会 0551-45-7256

南アルプス市

①古屋敷遺跡（ふるやしきいせき）②南アルプス市中野 2182-1 ほか ③縄文・平安・中世 ④令和6年6月10日～令和6年8月9日 ⑤小澤英幸 ⑥南アルプス市教育委員会 ⑦約770㎡ ⑧ 調査地点は市之瀬台地南半分はほぼ中央、東側に開けたテラス面で標高約427mに位置する。本調査地点の東側では富士川西部広域農道建設に伴い平成5年に発掘調査が行なわれ、縄文時代中期の竪穴住居等が調査されている。本調査は農業基盤整備に伴うものである。調査では東西方向に走る平安末から中世と思われる溝状遺構のほか、縄文時代中期と思われる数多くの土坑が検出された。遺物は縄文土器のほか、陶磁器片が出土している。⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

①御勅使川堤防址群（みだいがわていぼうしぐん）②南アルプス市六科 827 ほか ③近世・近代 ④令和6年8月1日～令和6年9月24日 ⑤後藤健一郎 ⑥南アルプス市教育委員会 ⑦約654㎡ ⑧ 本調査地点は国指定史跡御勅使川川堤防（将棋頭・石積出）を構成する将棋頭から北東に位置している。本調査は圃場整備事業に伴う発掘調査であり、将棋頭から不連続に続く御勅使川の堤防跡が検出された。調査の結果、堤体は砂礫を積み上げて構築されており、一部嵩上げが行われた痕跡も発見された。また、堤防の川裏側は徳島堰を利用した水田層と砂礫層が交互に堆積した状況であり、度重なる御勅使川の洪水とその後の水田の復旧に関する貴重な知見が得られた。⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

①下屋敷遺跡（しもやしきいせき）②南アルプス市山寺 1006 ほか ③弥生・平安・中世 ④令和6年9月4日～

令和6年9月24日 ⑤齊藤秀樹・小澤英幸 ⑥南アルプス市教育委員会 ⑦約254㎡ ⑧調査地点は市之瀬台地を浸食した漆川が台地下で扇状地を形成する扇頂部付近に立地しており、漆川左岸に占地している。調査地点は西から東に傾斜しており、標高約304～302mを測る。本調査は宅地造成に伴うものである。調査では弥生時代後期や平安時代の竪穴建物跡のほか中世と思われる土坑などが検出された。遺物では土器のほか古銭や奈良火鉢片が出土している。⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

①石積出三番堤（いしつみだしさんばんてい）②南アルプス市有野2511番12、2510番2、2506番2 ③近世・近代 ④令和7年1月14日～令和7年3月（予定）⑤斎藤秀樹・小澤英幸・後藤健一郎 ⑥南アルプス市教育委員会 ⑦約100㎡ ⑧国指定史跡御使川旧堤防（将棋頭・石積出）を構成する石積出三番堤の重要遺跡範囲確認調査を1月に着手した。本年度は令和4年度調査を実施した川面側基底部の南側を対象とし、現代段階で棒と推測される水割が並んで検出された。さらにその川側には竹蛇籠と推測される石列も発見されている。また県道工事によって掘削されている史跡指定範囲の堤体南端を調査し、堤体の内部構造の一端を明らかにする予定である。⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

北杜市

①老ヶ森B遺跡（おいがもりびーいせき）②北杜市高根町小池1-2 ③古墳か ④令和6年4月12日～令和6年5月1日 ⑤生山優実 ⑥北杜市教育委員会 ⑦57㎡ ⑧遺跡は、八ヶ岳南麓の南北にのびる細長い尾根上に立地し、今回の調査区は遺跡の中央西端にあたる。尾根の西端に位置し、敷地は谷に向かって緩傾斜している。発見された遺構は、出土遺物がごくわずかであったことから時期がはっきりしないが、弥生時代後期～古墳時代の竪穴状の遺構であると判断した。ただし、炉やカマドはなく、一辺が約2mと小規模であることから、竪穴住居跡かは判然としにくい。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①雲雀澤・辺成遺跡（ひばりさわ・べなりいせき）②北杜市高根町村山東割1890-1 ③縄文・古墳・平安 ④令

和6年5月8日～令和6年5月20日 ⑤廣瀬公明・渡邊泰彦 ⑥北杜市教育委員会 ⑦115㎡ ⑧現地は八ヶ岳南麓の流れ山の上に位置する。この流れ山は南北に細長い尾根状で、最大幅は130m程度と狭く、東西は比高差4～5mの幅の広い低地に挟まれる。個人住宅建設により発掘調査を行ったところ竪穴住居跡5（縄文時代中期2、古墳時代前期1、平安時代2）、掘立柱建物跡2、土坑8、ピット9を確認した。縄文時代と古墳時代の住居跡は大半が調査区外となる。平安時代の住居跡は2軒が重複し、いずれも10世紀代のものと考えられる。住居覆土の上層から銅製品が複数出土しているのが注目され、この周囲にも集落が広がっていると推測される。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①袋場遺跡（めたばいせき）②北杜市武川町2494ほか ③縄文・平安 ④令和6年5月15日～令和6年8月30日 ⑤生山優実・佐野隆・廣瀬公明 ⑥北杜市教育委員会 ⑦1,200㎡ ⑧県営園地整備に伴う発掘調査で、令和4年度より継続の調査である。令和6年度は約1,200㎡を調査対象とし、縄文時代中期中葉の竪穴住居跡5軒、中期末（曾利Ⅳ～Ⅴ）の配石遺構、土坑墓等を調査した。調査の結果、67号住居跡から土偶1点が出土した。9号配石遺構は弧状に礎を配した遺構で、細かく見ると複数個の小さい単位を見出すことができる。配石下部には、曾利Ⅱ～Ⅴの土坑墓と考えられる土坑が発見され、その中からはヒスイやメノウ、コハク製の垂飾が出土した。令和4～6年度の調査で、縄文時代中期中葉、中期末、後期初頭、平安時代の竪穴住居跡が計約90軒、中期末の掘立柱建物跡、配石遺構などを発見し、完形の土偶、顔面把手付土器、多数の顔面装飾などが出土した。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①渋田遺跡（しぶたいせき）（第4次調査）②北杜市長坂町大八田993-5・994-5 ③中世 ④令和6年7月8日～令和6年8月9日 ⑤廣瀬公明・渡邊泰彦 ⑥北杜市教育委員会 ⑦174㎡ ⑧現地は八ヶ岳南麓の南北に細長い尾根上に位置する。南側隣接地2カ所を令和2年と4年に発掘調査しており、ピット1,000以上、竪穴状遺構、地下式坑などを確認している。調査区を含む周囲には方形の地割を見ることができ、これまでの調査結果と合わせ中世の屋敷跡と考えられる。今調査区ではピット120以上、竪穴状遺構5、地下式坑4などが見つかった。

た。敷地内はほぼ中央から北側が1段高くなっているが、ビツは段下、竪穴状遺構は段上に集中する傾向があったことから、この段差は屋敷を区画するものであったと推測される。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①大免A遺跡・二ツ木B遺跡(だいまんえーいせき・ふたつぎびーいせき)②北杜市須玉町大豆生田825-1ほか③弥生・古墳・平安④令和6年10月3日～令和7年2月⑤生山優実・廣瀬公明⑥北杜市教育委員会⑦3,500㎡⑧遺跡は、須玉川左岸の自然堤防上の微高地に立地する。北側に「二ツ木B遺跡」、南側に「大免A遺跡」が隣接して存在する。調査の結果、弥生時代、古墳時代、平安時代の竪穴住居跡を40軒発見した。平安時代の住居跡が主体を占め、調査区全体に分布している。調査区南側には、昭和46年の中央自動車道建設に伴い発掘調査された大豆生田遺跡が存在し、両遺跡は須玉川左岸に広がる連続した集落である可能性が高く、今後はその歴史的位置づけが注視される。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①渋田遺跡(しぶたいせき)(第5次調査)②北杜市長坂町大八田985-7・988-1③中世・近世か・近現代④令和6年10月21日～令和6年11月7日⑤廣瀬公明・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦152㎡⑧現地は第4次調査地点の南110mの位置にあり、同じ屋根上にある。個人住宅建設により発掘調査を行ったところ掘立柱建物跡1、井戸跡1、地下式坑2、不明遺構5、土坑などを検出した。掘立柱建物跡は南北7.1m、東西6.6m以上と大きく、建物の東端2間の幅で客土を入れて固めた硬化面が確認された。井戸は建物の北側3mの場所で発見された。不明遺構は一辺約4mの方形か直径約3.5mの不正円形で、幅0.5mの溝で囲まれる。遺構の中央付近に浅い土坑が1つ掘られる。溝からは現代の瓦片が出土するため新しい遺構であり、営農に関わるものと推測される。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①渋田遺跡(しぶたいせき)(第6次調査)②北杜市長坂町大八田985-1③平安・中世・近世か・近現代④令和6年10月28日～令和6年11月12日⑤廣瀬公明・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦94㎡⑧現地は第5次調査地点の南側隣接地となる。個人住宅建設により発掘

調査を行ったところ掘立柱建物跡2、竪穴状遺構1、不明遺構6、土坑などを検出した。掘立柱建物跡の1棟は柱間が南北4.6m、東西4.8mと巨大で、直径1mほどの円形の穴の底面に礎石を据えて柱穴としている。敷地内で6基を確認し、南側へは延びないことを確認したが、全容は不明である。竪穴状遺構は南北1.4m、東西1.8mを測り、西壁に幅0.6mのスロープが付く。4次調査地点によく似た遺構がある。不明遺構は5次調査出土のものと同じで、東西に3基ずつ2列見つかった。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

笛吹市

①宮窪遺跡(みやくぼいせき)②笛吹市河内地内③中世～近世④令和6年7月8日～令和6年10月18日⑤御山亮済・浅尾和世・桐部夏帆⑥泉埋蔵文化財センター⑦約300㎡⑧新山梨環状道路東部Ⅱ期建設工事に伴う記録保存を目的とした調査。1面目では南調査区において近世以降の水田畦畔1条を検出し、近世の水田としての土地利用が明らかとなった。2面目では、地表下約3.6m地点において中世後半の溝1条及び石組み井戸1基、人骨を伴う土壌墓1基を検出した。2面目の調査結果は、周辺における中世後半期の村落の存在を示唆している。本調査は狭小面積であり村落の全貌を明らかにすることはできなかったが、周辺遺跡の発掘調査成果とともに、古代以降の歴史景観を復元するための重要な要素となる。⑨泉埋蔵文化財センター 055-266-3016

①池田神明遺跡(いけだしんめいせき)(第2次調査)②笛吹市石和町唐柏地内③中世～近世④令和6年8月26日～令和6年10月31日⑤御山亮済・浅尾和世・桐部夏帆⑥泉埋蔵文化財センター⑦約1,096㎡⑧新山梨環状道路東部Ⅱ期建設工事に伴う記録保存を目的とした調査。1面目では近世以降の畑跡と天地返し跡を検出した。天地返しは畑跡を掘り込んで行われている。また、検出した畑跡の内、1つは長さ約2m程度の畝のままとまりが認められる。同様の事例は、甲府市池田の東河原遺跡で見つかつており、綿花の畑の可能性が指摘されている。2面目の調査では、中世以降のこぶし大の礎を骨材にした水田畦畔を2条検出した。水田面は東高西低であることから、往時の微地形が把握できる。⑨泉埋蔵文化財センター 055-266-3016

①亀甲塚古墳(かめのこうづかこふん)②笛吹市御坂町成田地内③古墳④令和6年8月30日～令和6年9月7日⑤柳原功一・阿部朝衛・高木暢亮・植月学・佐々木ランディー・赤司千恵⑥帝京大学・帝京大学文化財研究所⑦約35㎡⑧帝京大学大学院、史学科考古学コースの考古学野外実習として実施する学術調査で、墳形確認を目的に平成29年より継続的に実施してきた。今回は北側の段差状遺構を東西に延長して範囲確認を行ったところ、約15m以上にわたり直線的な後方部のラインが明らかになり、令和5年に確認した前方部の存在と合わせ、現状よりひとまわり大きな前方後方墳である可能性が高まった。また北側墳丘の一部を断ち割り、盛り土状況を確認し、3世紀末の北陸系高環などを検出した。⑨帝京大学文化財研究所(柳原功一) 055-261-0015

①石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳群(いしばしやしきあと・せんやしきこふんぐん)②笛吹市境川町石橋2366-1③古墳～中世④令和6年10月7日～令和7年2月28日⑤内田祥一・江原東⑥県埋蔵文化財センター⑦約700㎡⑧1面目では、12世紀の遺物を伴う溝2条、竪穴土坑2基を検出した。2面目では周知の先屋敷古墳の前庭部や周溝から7世紀代の須恵器高環や甕が出土し、古墳は古墳時代終末期築造の円墳と考えられる。さらに調査区東側で無袖の横六式石室を発見、先屋敷2号墳とした。前庭部からは1号墳と同時代の須恵器長頸壺や土師器環などの遺物が出土した。また、石室内からは鉄刀や墨書された甲斐型土器などが出土、再利用された際に納められたものと考えられる。今後は隣接している毘沙門遺跡の成果と合わせて当地域の歴史景観を考察する必要がある。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①史跡甲斐国分寺跡(しせきかいこくぶんじあと)②笛吹市一宮町国分地内③奈良④令和6年10月16日～令和7年1月21日⑤江草俊作⑥笛吹市教育委員会⑦約105㎡⑧国指定史跡甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡の史跡整備に先立ち、甲斐国分寺跡の中心伽藍地域の性格等を把握することを目的として発掘調査を実施している。今年度は、甲斐国分寺跡の回廊南西隅、回廊北東隅、西基壇建物跡の遺構確認を目的として調査区を設定した。その結果、回廊南西隅において、回廊の造営に伴う遺構が確認された。⑨笛吹市教育委員会 055-261-

①毘沙門遺跡(びしゃもんいせき)②笛吹市境川町石橋2118-4③古墳～平安④令和6年12月20日～継続中⑤鷹野あきこ・河西完⑥県埋蔵文化財センター⑦約1,300㎡⑧中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴う発掘調査。古墳時代終末期、及び奈良・平安時代の集落跡であるとみられる。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①西原遺跡(にしはらいせき)②笛吹市境川町小山1223-1③縄文～古墳④令和7年1月30日～令和7年3月28日(予定)⑤高左右裕・高野玄明⑥県埋蔵文化財センター⑦約700㎡⑧リニア中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴う発掘調査。縄文時代から古墳時代の集落跡が検出されると想定。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

中央市

①二又第1遺跡(ふたまただいいちいせき)B区②中央市成島地内③中世④令和5年7月6日～令和6年5月31日⑤御山亮済・浅尾和世・桐部夏帆⑥県埋蔵文化財センター⑦約2,400㎡⑧中央新幹線建設工事に伴う記録保存を目的としている。これまで実施したA・C区の隣接地の調査。今回調査では、ビット782基、土坑234基、溝22条、石組み井戸2基、集石遺構9基、土壇墓19基、不明遺構45基を検出した。石列や溝で区画された空間は新たに4区画見つけた。二又第1遺跡の調査は中世村落の構造を考える上で貴重な資料となる。また、道路状遺構を軸とした境界線が継承されていることが想定され、周辺の土地履歴の復元に資する成果である。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①上窪遺跡(かみくぼいせき)(第11次調査)②中央市成島3512-2③古代・中世④令和6年3月13日～令和6年7月5日⑤内田祥一・江原東⑥県埋蔵文化財センター⑦約1,200㎡⑧1面では水田10枚とこれに伴う平安時代後期～鎌倉時代の土師器を検出した。2面では水田13枚とこれに伴う平安時代の土師器を出土するなど、同遺跡の過去の調査成果と同様の生産域が確認された。但し、過去の調査で検出されている9世紀の集落

富士川町

跡は検出に至らなかった。また、調査区東側の2面水田の下層では、過去に中央市域では確認されていない小区画水田と思われる小規模な単位の水田跡が検出された。遺物が伴わないため、今後自然科学分析等で年代を推定することにはなるが、律令制以前の水田跡が期待される。

⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①上窪遺跡(かみくぼいせき)(第12次調査)②中央市下河東③平安・中世④令和6年9月2日～令和6年12月25日⑤今村直樹⑥中央市教育委員会⑦1,900㎡⑧病棟建設工事に伴う発掘調査(12次調査)。現地表下170～200cmの間に平安時代後半から鎌倉時代の水田跡を2面検出した。さらに第3面として220cm下から平安時代中ごろの溝跡、土坑、柱穴を検出した。遺物は第3面から土師器、陶器、柱材、鉄製品が出土している。出土した柱材の1本は直径が30cmあり、大規模な建物の存在が推測される。⑨中央市教育委員会 055-274-8522

①平田宮第2遺跡(ひらたみやだいにいせき)(第5次調査)②中央市下河東地内③平安・中世④令和6年11月7日～令和7年3月31日(予定)⑤御山亮濟・浅尾和世⑥県埋蔵文化財センター⑦約2,100㎡⑧中央新幹線建設工事に伴う記録保存を目的とした調査。調査対象面積中300㎡について調査中。1面目では、既往の調査で平安時代後期～鎌倉時代とされる水田面を4面検出した。調査区南西の畦畔は旧河道により削平されている。2面目は畑跡。畑の畝間を14条検出した。既往の調査では、同面において10世紀頃の集落跡が検出されている。3面目では杭列および柵(しがらみ)の構造材と思われる木材の集積を検出した。杭列とともに護岸施設が設置されていたと想定される。4面目は10世紀頃の畑跡。地震による地割れが著しい。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①小井川遺跡(こいかわいせき)(第7次調査)②中央市布施402-2③中世④令和7年3月10日～令和7年6月10日(予定)⑤内田祥一・江原東⑥県埋蔵文化財センター⑦約700㎡⑧1面目では、16世紀頃の水田などが検出される想定。3月上旬から表土掘削開始予定。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①青柳町町屋口遺跡(あおやぎまちまちやくちいせき)(第4次調査)②南巨摩郡富士川町青柳町1656-1③近世・近代④令和6年7月22日～令和6年9月30日⑤内田祥一・江原東⑥県埋蔵文化財センター⑦約1,500㎡⑧青柳河岸に向かう御蔵道跡、水路跡、石橋を検出した。御蔵道は幅3m程度でかまぼこ状を呈する。長年の往来によって道上部は硬化面となっており、数度にわたって礫を入れ、改築をしていることが判明した。水路遺構はV字の断面を呈し、木杭が等間隔に打たれる。これら遺構の築造時期は、石橋の下部構造である石積が落積みであること、御蔵道の直上の地層から近世以降の遺物が出土していることから、近世～近代とした。旧公園と照会した結果、検出遺構と地図表記が一致しており、近代初頭の周辺景観を考察する際の貴重な成果となった。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

知ろう山梨の歴史!

山梨の遺跡発掘展2025

山梨の歴史。迫力ある出土品の数々を公開。

令和7年

3 / 1 (sat) → 3 / 30 (sun)

休館日：3/3・10・17・24

会場

山梨県立考古博物館
企画展示室

(山梨県甲府市下曾根町923)

入場
無料

石橋氏屋敷・先屋敷古墳



南アルプス市 史跡御勅使川旧堤防
(将棋頭・石積出) [近代]

北本市 登場遺跡 [縄文]

中央市 平田宮第2遺跡 [平安]

上窪遺跡 [古代~中世]

二又第1遺跡 [中世]

小井川遺跡 [中世]

富士川町 町屋口遺跡 [近世~近代]

全 県 県内分布調査

日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」

関連展示 甲ヶ原遺跡(北本市)

埋蔵文化財センター普及事業

主催 山梨県埋蔵文化財センター

共催 山梨県立考古博物館

協力 甲府市教育委員会、韮崎市教育委員会、南アルプス市教育委員会

北本市教育委員会、昭和測量株式会社

問合せ 山梨県埋蔵文化財センター

☎055-266-3016 (平日9時~17時)

HPは
こちら→



*発掘した埋蔵文化財は地域の特色ある埋蔵文化財活用環境。

甲府市 勝山城跡 [古墳・中世]

大津天神堂遺跡 [中世]

大津横田遺跡 [中世]

入田遺跡 [中世・近世]

史跡甲府城跡 [近世]

伊勢町遺跡 [弥生・古墳]

都留市 中谷遺跡 [平安]

笛吹市 毘沙門遺跡 [古墳・平安]

石橋氏屋敷・先屋敷古墳

[古墳~中世]

宮窪遺跡 [中世]

池田神明遺跡 [中世~近代]

韮崎市 羽根前遺跡 [縄文・平安・中世]

柳原神社境内遺跡 [近世]



登場遺跡

山梨考古第175号

発行日 2025年3月15日

発行者 新津 健

発行所 山梨県考古協会

〒406-0032 山梨県笛吹市石町四日市場1566

帝京大学文化財研究所内

TEL 055-263-6441

やまなしのこうごく <https://sankoukyou1979.wordpress.com/>

印刷所 峡南堂印刷所

TEL 055-235-2528